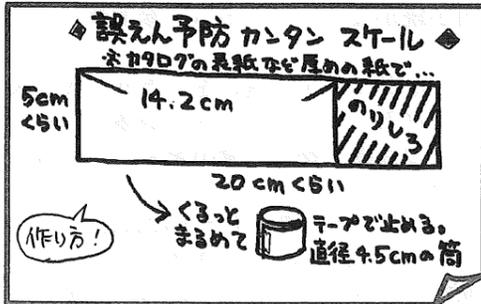


# 支援の場での事故予防を考える…



先日、横浜市子ども青少年局主催で子育て支援拠点や親と子のつどいの広場等のスタッフを対象にした子どもの事故予防についての研修会が開かれました。私たちはその研修で学んだことを基に今一度、施設内の安全についてチェックを行っています。

特に丁寧に見直しを行っているのが、誤嚥による窒息が起こりうる玩具（おもちゃ）がないかという事です。これまでも、おもちゃの安全チェックは行ってきたのですが、現在の国際規格では「直径4.5ミリの円を通り抜ける球形のものは、3歳までの子どもの玩具としては不適」ということなので、さっそく簡単にチェックできるスケールを作って確認をし直しました。



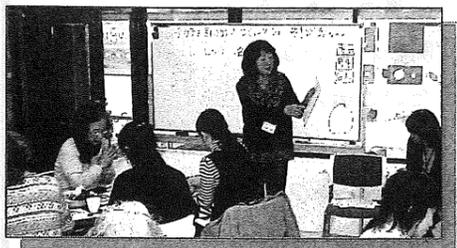
ボールやビー玉等の球体はもちろんですが、コインのような薄くて円形のもの、円錐型や半球体型のものも要注意！探してみると結構あります。例えば、おままごとの野菜や果物。マジックテープなどでくっついているのを切ってあそぶもので、取り入れている支援場所も少なくないと思います。これらのものを完全に失くしてしまうのは難しいかもしれませんが、大人と一緒に遊ぶ時だけ使うようにする等の工夫をすることは出来るのではないのでしょうか？

研修会で講師が強く訴えていたのは「事故はゼロにはできないが、大部分は予防できる。ヒヤリハットから、この事故によって起こりうる最悪の結果を予測し、その結果が深刻であるならば、最低限その“最悪”だけは予防できるように対策をとる。」ということでした。それにはまず「気づき」が大切。「ひやとした」「ハッとと思った」「対応困ったな」ということがあった時、すぐにスタッフ同士で話し合い、一緒に対応を考えていけるといいですね。

また、こうした危険は家庭内でも起こりうることです。悲しい事故を少しでも減らすために、事故予防について、ぜひ参加者にも伝えていきたいと思います！

## ★子育て支援関係者向け講座「力を引き出すコミュニケーション」報告★

1月20日(火)はぐはぐの樹研修室で南区内外より15名が参加して行われました。講師のエンパワメントかながわのお二人のリードのもと「子育てがラクになるワークブック」に沿ってグループワークを行いました。紙ねんども登場する等、楽しい講座でした。



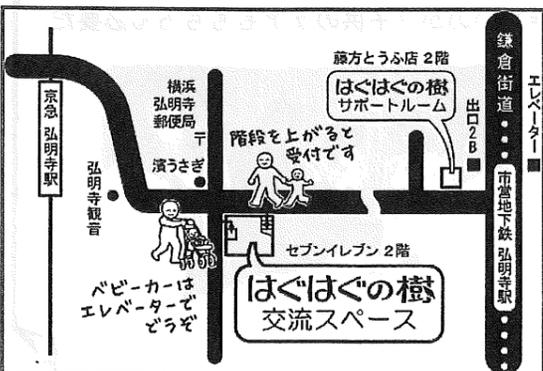
### 【参加者の感想より】

- ☆自分を大切にすることが相手を大切にできるのだということ。
- ☆ひろばのスタッフでもありますが、母親としても、子どもとの関わりにも生かしたいと思います。
- ☆聴くだけでなく、グループで言葉を交わすことができ、いろんな気持ちがわかりました。

年4回発行しています。ご意見やご感想をお寄せください。また、はぐはぐの樹ホームページにバックナンバーを掲載しています。

### 「にこで～和手～」第12号

【発行】  
南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹（サポートルーム）  
〒232-0056 南区通町4-115 アイリン弘明寺2階  
TEL:720-3655 FAX:715-3815  
MAIL: info@haghagnoki.jp



南区の子育て支援関係者のみなさん向け情報誌

第12号



2015年春号 南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹 発行

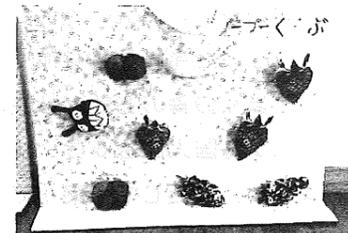
あちらこちらで花が咲き始め、街を歩いていても目が楽しい今日この頃です。“春は出会いの季節”今年はどうな子ども達それぞれの支援場所にやってくるのでしょうか。楽しみですね！多くの出会いが生まれるよう、27年度も様々な取り組みを進めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 活動訪問

### 太田地区子育てサロン

### ブーブーくらぶ

京急南太田駅から平戸桜木道路沿いに井土ヶ谷方面に進み高速道路の高架下をくぐってすぐ右手に太田地区町内連合会館があり、そこで太田地区子育てサロン「ブーブーくらぶ」が開かれています。2012年9月にオープンしてから約2年半が経ちました。「一年目は平均20組くらい来ていて、スタッフと合わせると50人以上が会場内にひしめいている時もありました。今は15組くらいでちょうど良い感じです。」と代表の高田さん。伺った時も12～3組の親子が心地よさそうに過ごしていました。「ポツンとしている方がいるとスタッフが声をかけますけど、なるべくお母さん同士が話せるようにしていま



フルーツを取ったり着けたりできる手作り布おもちゃ



島山さんが作った手作りおもちゃの数々



明るくチャームなスタッフさん達

す。それが一番だと思って。」そうした心配りが浸透しているようで、参加者同士が言葉を交わしながら子どもを見合っている様子があちらこちらで見られました。

ブーブーくらぶの最大の強みはスタッフさんのチームワークの良さ。手芸が得意で会場内の飾りや布おもちゃを作る方、重くなっている会場の雨戸を開けるなど力仕事を引き受けて会場準備を進める方等「スタッフが多彩多芸で、それを活かしてどんどん動いてくれる。帰りにランチすることもあって仲良しなんですよ。」とのこと。中でも、手作りおもちゃや編み物の名手である島山さんがキーパーソン。写真にあるような様々な手作りおもちゃを手掛けているだけでなく、小学生ママスタッフさんをスカウトしてきたのも島山さんだとか。「いつもではなく出来る時だけ。子どもを見てるだけなら、この前までずっとやっていたし出来るなど。おっぱいも出ればあげられるんだけど！（大笑）」と気さくにおしゃべりしながらも「受付は私たちがやるから、島山さんは中に入って。ママ達もその方が話しやすいし…」と玄関先にありこの時期は寒い受付を

進んで担当する気遣いがさりげなくて「この若い人たちが宝。本当に素晴らしいの。島山さんの人柄が引き寄せているんです。」という高田さんの言葉に大いに頷きました。

27年度も各支援場所を訪問させて頂き、順次ご紹介していきます。受け入れよろしくお祈りします！

# つながりを強めて地域の子育て力をさらにパワーアップ！～南区子育てもっとネット 26年度報告～

「安心して子どもを産み育て、子育てに喜びを感じることができるよう、子育てを地域全体で支援する力を高めること」を目的としている南区子育てもっとネット。南区全体でのネットワークを進めるとともに、26年度は各地区内でのつながりを強めていく“地区版”にも取り組み、新たにお三の宮・寿東部・中村エリアで開催することができました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！27年度もよろしくお願いいたします。

## 第1回全体会議 6月10日(火) 14時～16時 南図書館2階研修室にて 45名参加

- 活動紹介「NPO法人ひだまりの森 ～子育て期の電話相談について～」
  - 「第2期地域福祉保健計画子育て部会」振り返り及び「第3期南区地域福祉保健計画策定」について（関係者アンケートご協力をお願い）
  - グループワーク「活動をつなげよう」（団体同士が連携して成果があった事や、これからやってみたい事、課題等）
- 【参加者アンケートに書かれた感想】
- \* 今後のサロンの活動を楽しそう。
  - \* いろいろなグループとつながりのきっかけができました。
  - \* 他の団体との交流の場として必要。自分の知らない分野の話が聞ける。
  - \* こんなに活発に意見交換できる機会はなかなかないので、とても良かった。
  - \* ひだまりの森のお話では表面に出てこない悩みを抱えている方がいることを改めて感じました。
  - \* 南区が外国人割合3位/18区ときいて驚きました。広場にも中国、韓国、フィリピンの方が来ますが、果たして馴染んでくれているのか？考えさせられました。
  - \* 地域とのつながりの大切さがわかりました。異世代交流等があると良いと思います。
  - \* 赤ちゃん訪問の際にも感じるのですが、小さな悩みを持つ方が多いので、気軽に話を聞いてあげられる場がもっとあったら良いと思います。



## 永田エリア版会議 3月4日(水) 14時～16時 永田地域ケアプラザにて名参加

- 出席者近況報告（26年度の取り組みの様子と27年度の予定等）
  - 永田エリアの子育て情報と子育て支援資源マップの確認
  - 永田の子育て支援未来図を描いてみましょう！
- 【参加者アンケートに書かれた感想】
- \* 顔の見える関係づくり、やはり重要だと思います。
  - \* 具体的に課題が見つかる機会だと思いました。
  - \* 自分の地域の課題だけでなく他のサロンの話がとても参考になってよかったです。
  - \* 地域の担当・園の方々と顔を合わせてお話をさせて頂くことにより、何かあった時に相談しやすい関係作りができて、よかったです。
  - \* 地域の方同士の情報交換も引き続き大切だが、区・区社協・ケアプラザ・拠点が課題に感じていることについて、地域の人と解決策と一緒に考えられる場であってもよいのではないか。
- 4月19日(日)に永田地域ケアプラザで開催される「永田支えあい祭り」に、永田エリア版会議で作成した子育て支援資源マップを掲示し各支援場所のPRをするとともに、この会議で出された課題と「こうなったらいいな！」も示して、来場者の皆さんからご意見や感想を集め、27年度の永田エリア版に活かしていきたいと思っております！当日の様子は次号の「にこで」でご報告します。



## お三の宮・寿東部・中村エリア版会議 10月30日(木) 14時～16時 浦舟地域ケアプラザにて 21名参加

- 参加団体・施設の活動紹介
- グループトークと内容発表

### 【グループワークの概要】

#### 運営上の悩み

- ◆ノウハウがあればもっと力を入れたい！
- \* 参加者同士の「つなぎ役」必要だが…
- \* 一度来ても利用が続かないことがある。参加者が少ないとつながりも難しい。
- ⇒参加者同士がつながりやすい遊びをしたり「また来てね」の声掛けを心がけることでリピーターが多くなっている。
- ◆プレイルームなどの会場や物品の貸出をもっと子育てグループにも活用してほしい！
- \* あまり知られていない？どう情報をとどければいいのか？
- \* 実はあまりサークル化されていないのでは？
- ◆支援会場が、親子が行きにくいところにあるのをどうしたら良いか？

#### 障がい児

- ◆小さいうちから交流していくことが大切。
- ⇒どんとこい・みなみの取り組みをもっとアピールしたい！
- ◆親同士が話せる場が必要。
- ◆支援の場に出て来られない親への声掛けをどうしたら良いか。

#### 外国籍親子

- ◆支援の場であり見かけないが？
- \* 学校や保育園などに入学入園する前の親子の様子が分からない。
- \* 小中学生の日本語学習や学習支援での様子では、親同士のつながりよりも、子どもに日本語を習得させたいという希望が強いようだ。
- \* 仕事を持っている人も参加しやすいよう日曜日に開催しているが来ない。集まる習慣がないのか？
- ⇒生活習慣の違いなどについて、当事者に聞くことができないか？
- ◆言葉の壁をどう乗り越えたらいいか？
- \* 必要な情報が届いていないのではないのか？どう工夫すればいいか？
- ⇒外国語版のパンフレットや、通訳ボランティアを活用する方法もある。

#### 父親同士

- ◆参加するパパは少ない。ひとりで子どもを連れてきて参加するのは難しいようだ。
- ⇒話すきっかけを作るといいのではないのか？



毎年恒例になりつつある「まちのほっとスペーススタンプラリー」は26年度も大好評で約1300組の親子が参加しました。新たに支援会場へ足を運ぶきっかけになったという感想が多く聞かれました。

## 第2回全体会議 2月24日(火) 14時～16時 南図書館2階研修室にて 33名参加

- 地区版お三の宮・寿東部・中村エリア会議報告
- 「発達障がい児親子の理解と地域における支援について」 子育てママ支援 warm place 塚原さん
- グループワーク「地域でできることを考えましょう」
- 第3期地域福祉保健計画策定に向けたアンケートから見える傾向について他

### 【グループワークで出た意見・感想】

- \* きっと日々の人も頑張っていると思うのでホッとできるような場所でありたい。
- \* スタッフが少なくなってしまっていて参加している人たちとうまく関わっていない。
- \* その子の“暮らしやすさ”のために何が出来るかを一緒に考えたいと伝えたい。
- \* スタッフはもちろん利用者にも理解してもらえるような場づくり。
- \* 育児書やネットなど情報がありすぎて何が良いのか、わからない時代になったと思う。複数紹介することで自己決定選択しやすくする。
- \* 老人介護の様に要介護要支援など受け入れる体制はできないのか？子供のケアももちろん必要だがケアする家庭、家族を守る体制が必要なのでは？
- \* 診断が出るまでの親の気持ちが理解できた。
- \* ひとりのひと言でキズつき、ひとりのひと言で救われた経験があります！ひと言の重さを大切にしたい。
- \* 声かけをどうしたらいいかわからない時がある。
- \* 当事者の生の声は非常に重みがあった。

